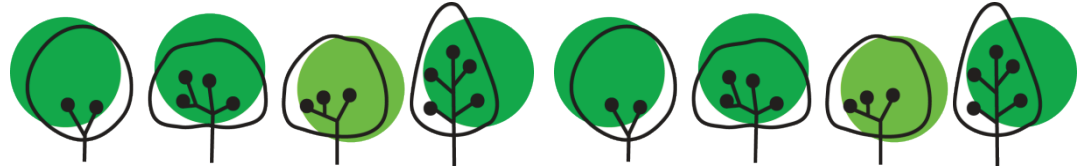




木地師のふるさと

vol.15



R7. 4発行

特集：木地師にまつわる調査報告

木地師にまつわる調査を継続して行っています

東近江市では平成28年度に「平成の氏子駈・氏子狩復活事業」としてアンケート調査や各地の資料館等へのヒアリングを実施して以降、継続して全国の木地師ゆかりの人や地域を訪問し、全国に広がる木地師の暮らしや生業について調査を実施しています。

また、「木地師のふるさとアーカイブ・プロジェクト」と銘打ち、市民ボランティアの協力を得ながら、平成30年度から市が保有する約1,300点以上もの木地師関連資料の整理を進めており、令和6年度は活動の最終年として、これまでに整理した資料を報告書としてとりまとめました。

今号では令和6年度に行った市内各施設での資料展示や全国各地における木地師文化調査、アーカイブ・プロジェクトのとりまとめ作業について報告します。

■2024年度 市内各施設での資料展示

木地師文化を市民の方々にもより知っていただき、木地師のふるさととして全国に情報を発信するため、毎年市内施設での木地製品の展示等を実施しています。令和6年度は令和7年1月下旬から3月上旬にかけて、東近江市内3箇所（湖東図書館、市役所、永源寺図書館）で、木地製品の展示会を開催しました。

今回は、全国の「氏子かり」で訪れた地域と現在東近江市に収蔵されている木地製品に着目し、「氏子かり」に使われた「氏子駈帳・氏子狩帳」や「氏子かり」で訪れた地域と日本の主な漆器産地との関係を紹介し、市に収蔵されている各地の木地製品を展示しました。



展示の様子
(湖東図書館、1/20～2/5)



展示の様子
(市役所、2/14～2/25)



展示の様子
(永源寺図書館、2/26～3/5)



こけしや置物など人々の暮らしに関する木地製品



椀や調理器具など食に関する木地製品



市内在住木地師の作品

■大山こまと大山詣り

「大山こま」とは、朱・紫・藍の3色が回すことによって美しく調和するこまであり、2017年には伊勢原市の無形民俗文化財に指定されています。日本遺産にも認定された伊勢原市で行われている「大山詣り」の参拝客へ縁起物として販売されたのが始まりとされています。

「大山詣り」とは、鳶などの職人たちが巨大な木太刀を江戸から担いで運び、滝で身を清めてから奉納と山頂を目指すといった、他に例をみない庶民参拝であり、江戸の人口が100万人の頃、年間20万人もの参拝者が訪れたと言われています。

「大山詣り」は、現在先導師（徳川家康による大山山内改革によって追放された修験者）によって脈々と引き継がれており、参道には今も先導師が経営する旅館が建ち並んでいます。



和田仲太夫という御師が
経営する旅館

■大山こまを製作した木地師たち

文政13年（1830年）の蛭谷町の「氏子駄帳」には、相州大墨群大山挽物師（現在の伊勢原市大山）として、中村や（弥右衛門）、金子屋（三右衛門）、岩田屋（安五郎）、播磨屋（善兵衛）の4つの屋号と26人の木地師の名前が記されており、現在も中村や、金子屋、播磨屋の3つの屋号は残っています。

大山こまの最盛期であった昭和30年代には20数人の職人がいましたが、現在も大山こまを作っているのは金子屋8代目の金子吉延さん（1949年生）だけです。

■大山こまの作り方

金子屋8代目金子吉延さんは、大山こまを作るために必要な製材・成形・彩色を1人で行っています。昭和30年代ごろまでは足踏みロクロを使って大山こまを作っていましたが、現在はモーターを動力としたロクロを使っています。また、小さな大山こまを作る時には木工旋盤も使っています。



直径3センチの小さなこま

大山こまの外形をロクロで削る前には、胴体に使われるミズキを円筒形に打ち抜くための金属製の筒を使用しますが、これは大山こま職人の特徴的な道具の1つです。

大山こまの材料は胴体がミズキ、芯棒がケヤキやイタヤカエデであり、こまの大きさの種類は、2寸3分から4寸までの8種があります。



胴体の打ち抜きをする鉄製の筒

■蛭谷・君ヶ畑とのつながり

大山こま職人でつくる「太子講」では、聖徳太子と惟喬親王を祖神として崇めています。調査に訪れた際に、厨子に入った聖徳太子木像と惟喬親王尊像の掛軸や筒井神社の神符が大切に保管されていました。

「太子講」の人たちはこれまでに数回、蛭谷と君ヶ畑に参拝しています。1961年には、金子屋8代目金子さんの父である貞雄さんを筆頭に12名が筒井神社に参拝しています。しかし、大山こま職人が金子吉延さんしかいないため、現在「太子講」は中断されています。

今回の調査より、大山こま職人の方々も木地師のふるさと東近江市を身近に感じてくださっていることが分かりました。



聖徳太子像と筒井神社の神符

■こけしの歴史

江戸後期の頃、木地師が木地製品を作った後の端材でこけしを作り、温泉街に来る湯治客を相手に土産物として販売したことが、こけしの歴史の始まりとされています。「こけし」は、地方によって「きぼこ」「でこ」「こげす」「こうげし」など様々な名称で呼ばれていましたが、昭和15年、鳴子温泉で「東京こけし会鳴子大会」が開催された際に、呼称を「こけし」と統一されました。現在、こけしは全国に11の系統があり、それぞれに特徴や魅力を有しています。

■弥治郎系こけしと「鎌先商い」

こけしの産地として、湯治場の多い宮城県には鳴子系・弥治郎系など5系統があり、そのうち、今回は弥治郎系こけしについて紹介します。

蛭谷町が所蔵する「氏子駈帳」によると、延享3年（1746年）、奥州仙台刈田郡八宮村之内弥治郎木地屋として仁右衛門の名が記載されており、弥治郎地区に木地師がいたことが確認できます。

弥治郎系こけしの産地である鎌先温泉（宮城県白石市）では「鎌先商い」と言い、木地師の女房たちが温泉に出向いて、湯治客相手にこけしを販売する風習が昭和30年頃まで続きました。

このように生産者が消費者に直接販売することにより、競争を促し、売れるこけしを追求したことで、様々な様式が生まれ、弥治郎系こけしは「〇〇マケ」と呼ばれる系列に分類されるようになりました。

マケとは、本家とその親族・分家や弟子などを含む組織集団のことであり、こけしの形態、図柄、模様などはマケに属していない人は使用できませんでした。現在、弥治郎系こけしには、新山マケ・佐藤マケ・小倉マケの3つのマケが存在しています。



鎌先商い（白石市鎌先温泉）

■筒井神社におけるこけし工人による初挽き奉納

昭和34年、弥治郎系伝統こけし工人らは、東近江市蛭谷町に鎮座する筒井神社から惟喬親王の分霊をいただき、小野宮惟喬親王神社（通称「こけし神社」）を建立して以降、こけし工人らの祖神として崇敬し、毎年1月初旬にこけし初挽き奉納を執り行っています。

令和6年の年始めに弥治郎こけし神社氏子会から蛭谷町の自治会長宛てに、筒井神社において「こけし初挽き」を奉納したいとの依頼があり、令和6年12月8日に筒井神社拝殿において、こけしのロクロ挽き実演奉納が実現しました。当日は、白石市の関係者やこけし工人ら11名を迎え、佐藤英雄こけし工人がロクロでこけしを挽き、彩色を施し、筒井神社に奉納しました。今回の「こけし初挽き奉納」は、奉納者一行及び蛭谷町関係者の双方にとって、小椋谷が「木地師のふるさと」であることを再認識する機会となりました。



小野宮惟喬親王神社
（白石市弥治郎）



奉納こけし



集合写真



こけし工人による
初挽き奉納

木地師のふるさとアーカイブ・プロジェクトについて

■ ボランティアの方々の意見を中心に報告書を取りまとめています

平成30年度から継続して行ってきたアーカイブ・プロジェクトですが、資料の調査・分類整理について一定の成果が見えたことから、令和6年度で一区切りとすることになりました。

これまでの資料の調査・分類整理の成果を取りまとめた報告書を作成することとし、ボランティアの方々の意見を参考に分類項目の決定や報告書に掲載する木地製品の写真や図面の選定を行いました。報告書作成に当たっては、ボランティアの方々からそれぞれ思い入れのある木地製品の話が聞かれ、その思いが反映された報告書に仕上がっています。報告書が完成しましたら本ニュースレター等でお知らせします。



木地製品の分類整理

■ 現地踏査やヒアリングなどのフィールドワークを開催しました

これまで参加していただいたボランティアの方々が今後も市内で文化財等に関わるボランティアとして活動を続けていくための育成スタートアップとして、フィールドワークを行いました。

須藤先生のご指導のもと、現地を訪れたり、地元の方々に聞き取りを行った経験は、これまでの活動の理解をより深めるものになりました。

フィールドワーク①（令和6年10月実施）

- ・ボランティアの1人で旧永源寺町和南に住む中島さんの自宅で、木地製品等が收藏されている蔵に入り、中島家で古くから使われていた木地製品の調査を行いました。
- ・中島さんに当時の木地製品の使用方法や保存方法を聞き取りました。

この地域でお葬式があった時には、近隣の方が木地製品に入れた料理を喪主の家に持ち寄っていました。



蔵の中での調査



中島さんへの聞き取り

フィールドワーク②（令和6年11月実施）

- ・蛭谷町で木地師を始めたと言われる大岩家のお墓と石碑の調査を行いました。石碑の近くには、全国から訪れる参拝者が蛭谷筒井神社に参拝する前に、身を清めたと言われる滝がありました。
- ・蛭谷町の自治会長への聞き取りと木地師の歴史にまつわるビデオを鑑賞しました。

地元の方は1000年以上も続く木地師文化を大切に思っており、後世に継承することが重要だと考えています。



大岩家のお墓の調査



自治会長への聞き取り

木地師のふるさと 東近江市

発行：東近江市企画部企画課

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

TEL（代表）0748-24-1234（直通）0748-24-5610

FAX 0748-24-1457

Email kikaku@city.higashiomi.lg.jp

Facebook <https://www.facebook.com/higashioumi.kijishi>

（Facebookでは随時、お知らせ等を行っています！！）

市HP



Facebook

